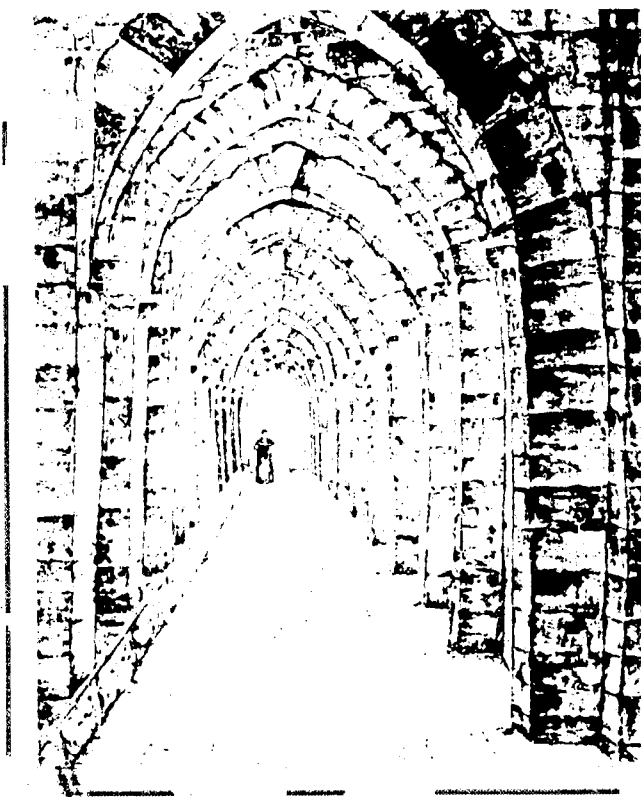


2007年(平成19) 2月

カルメル

# 霊性センターニュース



静かな光の元に 藤浦幽香

218号

## 「思われている」からの生き方

カルメル会 中川 博道

近年、様々な分野から、「今のままでは人間とその世界が自然界も含めて“壊れていく”」という声が上がってくる。文明の衝突、戦争、自然破壊、人類の滅亡の恐怖などの陰で、日本においても人が壊れていくという実感が伴う事件が頻発している。

哲学者の梅原猛氏はある記事の中で「環境破壊は近代哲学の原理が招いたものであり、この原理を否定せずには環境問題を根本的に解決する事は不可能であろう。」と指摘し、デカルト、ベーコンによって始められた近代哲学が人間を世界の中心におく事を問題視している。デカルトの有名なことば「我思う、ゆえに我在り」は、ともすると、“自分中心”の発想となりかねない。

最近の事件に触れながら、何が問題だろうと問い続ける時に、人が、自分、の“思い、願い、望み、恐れ、不安、傷、恨み、痛み……”、それらを自分の根底として受け止めてしまうことのように思う。

人間の根底とは「私が思っている事」だろうか、「私が感じている事」だろうか。梅原氏は、この原理から脱却しない限り解決はありえないと指摘する。この近代的な発想の原理は確かに人間を滅びに導くものであろう。それを越える新しいあり方が必要だ。

以前この紙面で紹介した、エレミヤを通しての聖書的発想は、デカルト的発想を根底から覆す。

わたしはあなたを母の胎内に造る前から あなたを知っていた。

母の胎から生まれる前に わたしはあなたを聖別し 諸国民の預言者として立てた。(1.5)

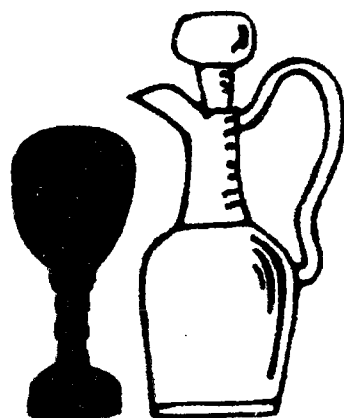
このエレミヤの体験は、根底において自分を「思われている者」として受け止め、生きていくことへと我々を促す。

「救いの福音」は、「私を食べなさい」「私を飲みなさい」と自らを省みることなく命を賭けて人を思うイエスにある。私の信仰とは「私は思われている者」として、全てにかかわっていく生き方であろう。真の新しい生きるための原理はイエスによるしかない。

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。

独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。(ヨハネ 3.16)

心の泉





幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd

——現代の十字架の聖ヨハネ——

帰天40周年にあたって (3)



聖霊の息吹のうちに

新しく生まれ変わるには

貧しいながらも 神に信頼して

すべてを委ねなければなりません

——幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd

私たちは「新たに生まれ変わりたい」という願いを、日々の生活の中で心の底にもっています。新しいことをはじめてみたり、過去のあやまちや失敗を忘れる努力をしたりして、人それぞれ違った生まれかわり方を模索します。けれどもまことに新たに生まれかわるには、聖霊の息吹、すなわち真理の霊・愛の霊によって、新たに造りなおされなければなりません。

『祈りの道』(サンパウロ社) より

聖霊によって新たに造りなおされる、それにはどうしたらよいのでしょうか。幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父に聞いてみましょう。

聖霊の息吹のうちに 新しく生まれ変わるには

貧しいながらも 神に信頼して すべてを委ねなければなりません

私たちはとかく自分の失敗、欠点など否定的なことにこだわり続けます。一番大切なことは神へ向かうことですのに、自分の周辺でうろろうしてしまいます。つまらない、みじめな自分をいとおしまれる父なる神を信頼し、貧しい故にこそ、その淵から神に呼ばわるようにとマリー・エウジェンヌ神父は言います(詳しくは2月の祈りの集いにて、参照p30)。父と子の愛である聖霊の息吹は、私たちの貧しさに引き寄せられ、うちから新たなものに造り変えてくださるでしょう・・・それには慈しみの愛に信頼し、委ねていかなければなりません。自分の貧しさ、心配にこだわることなく、聖霊の息吹を受けて日々生きていくようマリー・エウジェンヌ神父は私たちを励まします。

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

聖書を読むには「公案読み」というものがなければならない。  
言葉が作り出している、というより、言葉を生み出している背景の  
現実のなかに身をおいてみるということだ。

このような読み方ができないかぎり、聖書は教えだけに終わる。  
それもいつも現実から遊離した教えだけに。

福音著者自体の心境に入るとのことだ。

聖書がいずれも、その著者自身の技術的構成によって、ととのえら  
れているということは、当然であろう。

もしそうでなければ、写真のように個性のない、新聞記事になってし  
まい、著者自身の中にうけとめられた生命がなくなってしまう。

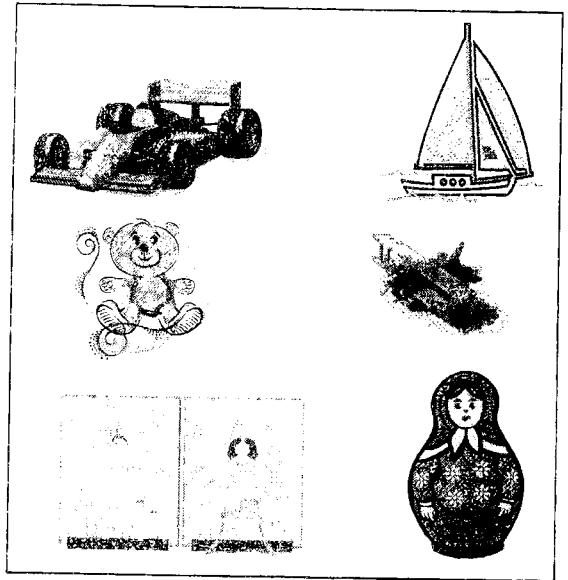
後に挿入された部分があるとしても、それも全体の構成に組み入れ  
ようとした無名の記者の生命意図を汲みとることができれば、不純な  
要素ではなく、かえって、信仰の表現とさえなる。

忠実な歴史的叙述は本来聖書的なものではない。

「信仰告白」という性格が聖書のものであるなら、著者によって告白  
の個性的性格が現れるのは当然である。

# ヘンリ・ナーウエンの 『旅路の糧』

(96)



## 私たちのほしいものを越えてゆくこと

時々、私たちはおもちゃ屋にいる子供のようにふるまいます。これがほしい、あれがほしい、また別のものがほしいと。選択の可能性がたくさんあると、私たちは戸惑い、私たちの中にひどく落ち着きのない状態が生み出されます。だれかに、「さあ、君は何がほしいんだい。一つだけ選んでいいよ。さあ、どれにするか決めなさい」と言われると、何を選んでよいか分からなくなるのです。

私たちの心がこれらの多くのほしいものの中を揺れ動き続ける限り、私たちは、人生の歩みにおいて、内的な平和と喜びをもって前に進めなくなります。それゆえ、私たちは、これらのほしいものをのり越えて、人生における私たちの使命を見出すために、内的外的な修行が必要なのです。

(0422)

## 私たちの欲求を秩序づけること

欲求はしばしば、私たちが克服すべきものとして語られます。しかし存在するということは、欲求することなのです。私たちの体、精神、魂は欲求で満ちています。或るものは、コントロールがきかず騒々しく、心をひどく散乱させます。或るものは、深い思想を呼び起こし、偉大なヴィジョンを垣間見させます。或るものは、どのように愛すべきかを教えてくれます。或るものは、神を求め続けさせます。神に対する私たちの欲求は、他のすべての欲求を導くべきものなのです。さもなくば、私たちの体や精神や心や魂は互いに対し敵となり、私たちの内的生活は、絶望と自己破壊へ導かれながら、混沌としたものとなってゆくことでしょう。

霊的修行は、私たちのすべての欲求を根こそぎにしてゆく道ではなく、それらが互いに仕え合い、それらが共に神へ仕えてゆくことができるように、それらを秩序づけてゆく道なのです。

(0421)

## 『必要なことは、ただ一つだけ』(21)

ルドルフ・V・デ・スーザ OCD (カルメル会)

このような人々に対して言うべきことは、愛に満ちたまなざしを神に注ぎつつ、静けさの中にとどまり、想像力やその働きに対し見向きもしないことを学ぶことである。この段階では、すでに述べたように、諸能力は休んでいて、能動的には働かず、それらの内に働いている神の影響を受け取るだけで、受動的な状態になっているからである。もし魂が時々、諸能力を働かせているならば、そこには無理な努力や推論的熟考はなく、おだやかな愛によるのであって、諸能力はわれわれ自身の力によるというより、神によって動かされているのである」。

(十字架の聖ヨハネ『カルメル山登攀』II, 12, 7-8)

祈りの間に起こっていることを知ることも意識することもなく、長い時間が過ぎ去ります。そのような祈りによって、人は元気づけられるのです。こうして、何も知ることなしに、私たちは神と共にいかに人生を楽しむかを知るのです。このような体験は、私たちに逆らういかなる状況や状態をも受け入れるよう、力づけてくれます。そしてそのような祈りの後に、自発性と静けさが、私たちの生活の中で体験されるのです。

### 型どおりの祈り以外の能動的祈り

すべてのものの中に能動的に神を見出すことは、祈り以外の何ものでもありません。旧約聖書の詩篇作者は、神を体験しようとした時、いたるところに神を見出しました (cf. 詩 8 ; 19 ; 46)。それは、私たちのすべての活動と体験において感覚や心や精神を高めることです。型どおりの祈り以外の能動的祈りとは、神の現存をあらゆる所に見出すために、感覚と諸能力を教育することです。私たちは、視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚という外的な感覚体験を教育し、それらを神へと高める必要があります。私たちが行うすべての活動の中に、私たちは、感覚の直接的対象の中に隠れている、あの神秘的で愛に満ちた神の現存を見出すこと



ができるのです。神はどこにでもおられ、私たちは神を探し求める必要があります。見てください。あたかも初めてかのように、友や敵の顔を、一枚の葉を、一本の木を、一羽の鳥を、一個の石を、あなたのまわりの人々の振る舞いや特徴を、しっかり見てください。ほんとうにそれらを見てください。そうすれば、おそらくあなたはそれらを、偏見や自分の判断で曇らされた精神で見るのではなく、あるがままに見ることができるでしょう。この態度が、自発的で効果的な祈りとなります。私たちの毎日の活動のすべての中で神を思い出すことは、それ自体、私たちの人生において私たちを向上させる一種の祈りなのです。何をしようとも、私たちは神のために行い、私たちの全存在を神に向けるのです (cf. 1 コリ 10 : 31)。このタイプの祈りは、私たちのまわりにあるあの神秘的で愛に満ちた神の現存に気づく時、生じます。私たちはどこにいても神との交わりの中に生きているのです。

## 型どおりの祈り以外の受動的祈り

神の浄化の働きは、祈りの時間にのみ制限されているわけではありません。諸聖人や神秘家は、しばしば祈りの間の「感覚や精神の受動的浄化」について語っています。しかし現実には、祈りが生活となり、生活が祈りとなる時、神の浄化の働きは、私たちの毎日の生活や活動にまで広がるのです。それは、私たちがほんとうに自分のやっていることに何の関心もない時、すべてのことに無気力になっている時、何の関心も熱狂も感じられない時、起きているのです。私たちはこの状態を、型どおりの祈り以外の受動的祈りと捉えることができるのでしょうか。実際、実にしばしば、やっている事柄を私たちがまったく楽しめないような仕方です。私たちが浄化しているのは、神ご自身であり得ます。浄化とは、私たちが自分の務めに何の喜びを見出せない時でさえも、私たちの心を神へと高めてくれることです。何かを満足しながら行なうことはごく普通で、おそらく楽しんでいるのかもしれませんが。何も起こらず、私たちがしていることやしなければならないことに関して、深い危機の状態にある時、それは、神が私たちの魂の中で浄化を行っていることを知らせてくれているのです。 (続)

くのり  
九里 彰訳

## 年間第5主日

## 『沖に漕ぎ出しなさい。』 (ルカ 5 1~11)

「沖に漕ぎ出して網を降ろし漁をしなさい。」とイエスがシモンに命じられたことはシモンが考えたように人の常識では考えられない愚かなことでした。魚は昼間湖の底にいて夜の間だけ餌を求めて浅瀬に集まるものだからです。けれどもイエスの内にある力がシモンの心の思いを突いたに違いありません。シモンは直ちにイエスのお言葉に従いました。その結果はシモンの予想をはるかに越える大漁でした。シモンの深い信仰と不屈の精神をご覧になったイエスは大漁という結果で報いて下さいました。この自分の身に起こったことを知ったペトロは深く恥じ入り自分の罪の重みに圧倒されます。ペトロは自分が全能の神であるお方の御前にあること、そしてこのお方だけが自分を罪の状態から解放することがおできになることを悟り始めました。彼はイエスの足もとにひれふして言いました。「主よわたしから離れてください、わたしは罪深い者なのです。」

このペトロが経験したと同じ体験を私たちもすることがあります。私たちが自分の罪の重みを深く心の底から悟った時、自分自身を、持っているもの全て、欠点までも神に捧げることが出来るように、キリストは私たちをご自分の豊かさで満たすことがお出来になります。私たちが自分の霊的貧しさを認識すると神の賜物は豊かに注がれその呼びかけを感じるようになります。日常生活で神の導き、神の御手を見出すとき私たちに出来ないことは何もないと確信します。

私たちみんなに向けられている挑戦は人生に於いて神の呼びかけに気づき、すぐに「はい」と答える勇気と自分に捕らわれない心を持つことです。神は私たちと共に神の愛と憐れみを全世界の人々に行き渡らせたいのです。ペトロはイエスのお言葉に従い網を捨てて人を漁る者となり、素晴らしい模範を示しました。今日でも尚ペトロはこの仕事に精を出しています。ペトロがイエスのお言葉に従って沖に網を降ろしたのはペトロがイエスに深い信仰と信頼を持っていたからです。一生の間イエスは私たち一人ひとりの手を取って共に歩むことを望まれます。その途上には新しい道を選び未知のものに向かうよう呼ばれる時もあるでしょう。その時私たちはペトロのように自分の思いを捨ててすぐに「はい」と答えねばなりません。私たちが呼びかけられた召命の挑戦に出会うならば。

(Sr. Paulina)

## 年間第6主日

『貧しい人々は幸いである、神の国はあなたがたのものである。』

(ルカ 6-17、20-26)

至福それは幸福、この上ない無上の幸福を意味します。「貧しい人々は幸いである。」とイエスが宣言なさる時イエスは貧しい人々こそ幸福であると宣言されます。学者たちは「幸い」と訳されている言葉は原文のギリシャ語では「神から寵愛されている」というような意味であると言っています。イエスは私たちに「祝い喜びなさい、あなたがたは天において大いなる報いを受ける。」と言っておられます。従ってイエスが山上の説教で述べられている「幸い」は現在と未来に向かって果てしなく続く真の永遠の喜び幸福のためのキリストの指針です。私たちはこれを深く考えその意味を理解すべきです。そしてこれをイエスのご生涯のプリズムを通して眺めなければなりません。

祝福と災い、あなたはどちらを選びますか。 私たちが切望していることが何であれそれは神の内にあります、神は完全な善、脈動する力です。私たちが愛したいと望むものが何であれそれは神の内にあります。神は完全な愛、ほとぼしる憐れみだからです。私たちが知りたいと思うものが何であれそれは神の内にあります。神は完全な知、ひらめく知恵だからです。私たちが所有したいものが何であれそれは神の内にあります。神は完全な美、流れ出るいのちだからです。

ですからイエスは山上の説教で神を選ぶ人たちは神に祝福され幸福であるが、そうでない人たちは不幸であると言われます。その選択は私たちに委せられています。神を選ぶかそれとも神以外のものを選ぶか？ イエスは私たち自身が選ぶのだということを強調なさいます。私たちは人生の大事な節目節目だけでなく、日々の生活で予期しない様々の好ましくない出来事のなかで、祈り神のみ旨にそって選択をしなければなりません。「祝福されよ、主に信頼する人は。主がその人のよりどころとなられる。彼は水のほとりに植えられた木。」 (エレミア 17-7-8 )

「貧しい人々は幸いである。」という教えは単なる物質的なことより先ず私たちの内面、心の状態に向けられています。私たちは自分の心の貧しさ、弱さ、いたらなさをよく知り、神からの恵みと助けがなければ何もできない者であることを心から悟り神に委ねなければなりません。ですからイエスは貧しい人々の神への深い信頼をご覧になってお褒めになりました。裕福な人々はその持ち物に執着せず、貧しい人々と寛大に分け合うようにと命じられました。

(Sr. Paulina)

年間第7主日

「敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしてください。」

(ルカ6:27～38)

今日の福音はひとつのパラドックスを表現しています。イエスは4つの命令をおこなっています。敵を愛しなさい；あなたがたを憎む者に親切にしてください；悪口を言う者に祝福を祈りなさい；あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい。イエスは、仕返しをしようとする心を特徴とする暴力の文化を排し、くり返される悪のサイクルを止める方法をすすめます。あなたの敵を愛し親切にしてください、という命令がくり返されます。何故でしょうか。この命令は、「恩を知らない者にも悪人にも情け深い」(ルカ6:35) 神の性格そのものに根ざしているからです。敵を愛することは、神の家族の明らかな特性です。

愛の命令の真の意味は、悪や暴力に黙って従うことではありません。不従順な者に正しい者を理解させ、憎しみや激しい破壊行為から敵を解放することによって、神の愛を模倣することです。悪ではなくあわれみと愛が人間の生活を支配すべきです。敵を愛することは、正義と平和の世界を追及することに代わるものではありません。その推進力なのです。ガンディやマーチン・ルーサー・キング Jr.に見られる正義や悪への抵抗に対する非暴力による追及は、イエスの愛の命令を具現化したものです。

何年前か、トマス・マートンは世界の暴力を見つめ、「憎しみに対する戦いのはじまり、憎しみに対するキリスト者の基礎的答えは、愛の掟ではなく、この掟を耐えられるようにするため、理解できるようにするためにまず先に来るべきもの、先にくる掟は信じることです。キリスト者の愛の根源は、愛する意志ではなく、人は愛されるという信念です。」と書いています。この発見がなされるまでは、「神のあわれみによってこの解放がもたらされるまでは、人は男性も女性も憎しみに閉じ込められています」(観想の新しい種 New Seeds of Contemplation)。私たちはたびたび恩を知らず悪人ですが、神のあわれみと愛を受け、敵の顔の中に神の顔を見ることができるとのことです。

(Sr. Paulina)

四 句 節 第 1 主 日

「『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある」

(ルカ4:1 ~ 13)

四句節は、私たちの行ないや動機を霊的妨げから清め、自己犠牲を通してキリストのご受難と死に与かり、私たちがキリストと共に再び立ち上がるという信仰において、イースターへの霊的準備をする時です。

ルカは、イエスと悪魔の間にかわされる対話を入念に描写しています。それは、その後のイエスのご生涯の前兆となる霊的解釈とテーマの論争です。ルカは、イエスが「聖霊に満ちて」と、描写の最初と最後で強調しています。こうして、この試みは聖霊の存在に包みこまれるのです。

この力強い描写は、今日もあてはまる数多くの挑戦を表しています。イエスが悪魔に試されることは本当にあり得るのでしょうか。世界は本当に悪魔の支配下にあるのでしょうか。イエスが直面した根本的な試みは何だったのでしょうか。これらは四句節とどのような関係があるのでしょうか。

ルカは第一と第三の試みの間に類似点を持たせています。二つとも苦しみと死からご自分を救うためにイエスをご自分の力を使うことを必要としています。これが、これらの試みの根本的な意味です。ルカは、サタンが「時がくるまでイエスを離れた」と記して、終わっています。最後の試みは、エルサレムで、十字架上で、やってきます。このとき再び、イエスをご自分を救うためにご自分の力を使う誘惑を3回受けます。イエスは御父が示されるのとは異なるメシヤ像に従うように誘惑されます。それは拒絶と苦しみに代わり、力を示すというものです。

このような「試み」は、今日イエスに従う者にとって避けては通れないものです。私たちの文化は、自己実現と物質的成功を優先させることで、表面的には自己を作りかえることに無限の可能性を示しています。キリスト者は、かわりに、「パンだけ」でなく生きるように(今日「パン」という言葉はお金を意味しています)、神だけを礼拝し仕えるように、平凡で重要でないように見える生活の中で神の意志を見分け受け入れるように挑戦を受けています。しかし、イエスにおいてと同様に、人生の試みは、洗礼において聖霊に抱かれることに始まり、苦しみと死を通して新しい生命に達するイエスの模範に従うことで、再び聖霊に満たされます。これが常に思い起こされ、新たにされる四句節の旅路なのです。

(Sr. Paulina)

# …ケリトの水にうるおわれて…

カルメルの人たちの祈り

## 14. コンピエーニュの聖女聖アウグスチヌスのテレジアと同志殉教者 (1794 18天)

フランスのコンピエーニュに、恐怖政治の時代を生き抜いた16人のカルメリットがいた。この共同体は、テレジア的精神に対する熱心さと忠実さで知られていた。戦争が起こった時も、彼女たちは世間の服を身につけることを望まず、修道服を着用し続けることを選んだ。多くの人々による流血の恐怖を目にしたが、その終結を見ることはなかった。聖アウグスチヌスのテレジア院長の励ましによって、彼女たち全員が、日ごとに奉獻を行い、平和をもたらすために自らをいけにえとして捧げた。次に上げる彼女たちの名前は、その犠牲の完全さのゆえに、重要なものである。

- Sr. 十字架上のイエス (78 歳)
- Sr. ご復活のシャルロット (78 歳)
- Sr. 無原罪の御やどりのユーフラシア (58 歳)
- Sr. イエスのジュリー・ルイズ (52 歳)
- Sr. マリアの御心のテレジア (52 歳)
- Sr. 聖マルタ (52 歳)
- Sr. カタリナ (52 歳)
- Sr. 聖霊のマリー (51 歳)
- Sr. 聖イグナチオのテレジア (51 歳)
- マザー・イエスのアンリエット (49 歳)
- Sr. テレジア (46 歳)
- Sr. 聖ルイ (42 歳)
- 院長 聖アウグスチヌスのテレジア (41 歳)
- Sr. 神の御摂理のマリー・アンリエット (34 歳)
- Sr. 聖フランシスコ・ザビエル (30 歳)
- Sr. コンスタンス (29 歳)



獄中、彼女たちは落ち着いた信頼と同時に平安の模範であった。喜びを振りまき、殉教を待ちながら歓喜の歌を作りさえたのである。1794年7月17日、16人全員が、パリの国民広場でギロチンにかけられ、イエスへの愛を歌いながら、世を去った。

— 祈り —

(聖アウグスチヌスのテレジア院長の祈り)

おお、幼子なる神よ、他の誰も私の切なる望みを満たすことはできません。  
そうです、他の何もわたしの心を満足させることができないのです！  
そのとき、私の心は落ち着きます。そしてこれからは、私はあなたのもの。  
私は、今やあなたの愛の一部となりました。  
私の罪深い靈魂を、これほど恥すべき罪から癒し  
私の心を痛みによって、愛の喜びで傷つけてください。  
神的な傷、私の靈魂のために与えられた最も報い多き傷が、  
昼も夜も苦しむために、私の心を殉教させてくださいますように。

おお神の愛よ、今私は全存在をあげて  
あなたのこの馬槽の前で、私の靈魂のすべてを委ねます。  
こうして、私の理性も視力も、今このときから、完全にお渡しします。  
私のあなたへの信仰は大胆ですから！  
あなたのみ心のみ！ あなたの心が私の師となられるでしょう！  
弱い者でありながら、私は思いと望みを犠牲として捧げます。  
もはや、あなたのみ心のうちで、私は一層早く抱きしめられることでしょう。  
私が求めるのは、愛の殉教だけです。

おお！私の望みを固めてください。  
おお、私の望みを死ぬことだけに置かせてください！  
本当に、私はあなたのために死なないことのゆえに、死ぬのです。  
主よ、私の溜息のすべてを早く終わらせてください。  
あなたのみにつなかれたこの鎖から解かれるとき、私は飛び行きます！  
あなたの刃に切られて、私の奉獻がすべて完成しますように。  
あなたのご意思以外に、私にとって甘美なものはないのですから。  
私の望みは、あなたの御手があなたの花嫁である私を覆い、  
犠牲が完成されることだけなのです！

あなたの牧杖が、私の保護に委ねられたこの羊の群れを  
師として支配してくださいますように。  
おお牧者なるお方よ、あなたの馬槽の前で、私はあなたに  
御母と羊の群れを委ねます。私の望むすべてを託して！  
おお、愛に満ちた元后、至聖なる力の御母よ  
おお、あなたの胸のうちに私たちのすべてを置いてください。  
すべての子供たちが、卑しい者でありながらも  
あなたの願いに信頼して、あなたの御力のうちに希望を置くのですから。

\* \* \* \* \*

この記事は、跣足カルメル在俗会会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(Ⅰ列17:3-4)」ということばに由来しています。

(浜田裕子訳・編)

## 木々の芽生え

お告げのフランシスコ姉妹会 S r. 熊田 照子

この頃、道を歩いていると、“もう春だなあ、何て木々の新芽がきれいなんだろう。”と、つい吸い込まれるように見とれてしまうことが多々あります。小枝が群がって芽を出し、それがフックラ集まって集団美となり、夢のように柔らかい感じを漂わせ、まるでお箸の先からませた“わたアメ”か何かのように、暖かくてやさしい感じを演出しているのです。木は、冬の間はしっかりと腕と足を構えて立っていないと、寒風にさらされたらひとたまりもなく折られ、大切な枝を失ってしまいます。そうすると、木としての自分の存在意義は全部消え失せてしまうのです。ですから余分なものは全部脱ぎ、必要なものだけを残して、ドーンと立って“北風よ、来るものならやって来い。”といった闘争的にさえ見える姿勢をとって寒さに備えていました。その木々が、今まで出さなかった新芽を次第に現し始め、人間や小鳥たちに対して、やさしく生きてあげようという本来の心を現わし始めたのです。それは人間でいえば、隠されていた本来のやさしい自分を主張でき、その意味での自信に満ちた、堂々とした態度をとることの表れのようにも見えます。その力強さで頑強に耐えていた、その意味での冬はもう過ぎ去りました。こんなに柔らかい柔軟性があったのか とい今更ながら思います。

その木々は、また同時に旧約と新約の相違をシンボル化しているようにも見えました。つまりイエス・キリスト出現以前の、旧約のユダヤ教・律法学者の信仰とその態度です。彼らはそれらを順法するあまり、掟が愛より先行して表面上のことは理にかなっているかに見えても、その実、中身にはもっとも大切な“愛”が欠けていました。掟というものは、目的に向かってシッカリと固定化されたもので、正しいと言えば正しいのですが…。それを無視するなら、昨今騒がれる 現代社会のルール違反から生じる社会悪に該当するかも知れません。掟には柔軟性がありません。コレといったらコレであって、そこには情状酌量の余地はないのです。

ではイエスの愛は…といえば、春に芽生えた新しい木々のように、小さいことの一つでも相手のことを慮おもんばかって、やさしく包んであげる、もしかしたら規則を破ることもあるかも知れない、という類たぐいのものです。その感覚とは、丁度、春に芽生えて、こんなに今までの木を優しく、フワツとした感じで包み込む というものではないでしょうか。このフワツとした感覚、それはとても大切な感覚だと思いました。



# いのちの言葉 1月

この方のなさったことはすべて、すばらしい。耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにしてください。

(マルコ 7・37)

1950年代、南アフリカの大都市周辺には、多数の有色人種地区が生じましたが、ウムラツィもその一つです。ここには75万人が住んでいますが、学校や病院、必要最低限の住居にも事欠き、サッカーをするグラウンドさえありません。失業率は40パーセントを超え、貧困から権力の乱用や暴力が生じ、エイズも蔓延しています。住民の多くが孤立感を抱き、自らの苦しみや問題について語るのを恐れています。

こうした状況を前に、ウムラツィの諸キリスト教会責任者たちは「何をすればいいのだろう」と自問し、まずは「沈黙を破る」ことだと考えました。人々のもとに出向いて一人ひとりの話に耳を傾け、彼らの生活を深く理解しながら、人々の抱える困難を共に背負うためです。こうした建設的な対話はまず若者たちとの間で始められ、いっそう深い関係が築かれていきました。

この経験に力を得たウムラツィのキリスト者たちは、今年世界各地で行われる「キリスト者一致祈禱週間」のために、マルコ福音書の一節を提案しました。それが今月のいのちの言葉です。

2007年「キリスト者一致祈禱週間」ガイドブックの解説によれば、キリスト者の間に築く一致と、人間の苦しみに対するキリスト教の答えとは、両方とも祈禱週間の意向になっています。

さて、イエスが旅をしておられた時、耳が聞こえず舌の回らない人が連れてこられました。イエスは「エッファタ」（「開け」の意）と言って、彼を癒され、人々はこの出来事にすっかり驚き、喜んで叫

びました。

この方のなさったことはすべて、すばらしい。耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにしてください。

イエスの奇跡は、彼が人生を歩む中で出会われた人々への愛の表現です。また、その奇跡は、イエスが地上に築こうとされる新たな世界の「しるし」でもありません。耳と口が不自由な人の癒しは、イエスが私たちに新たな理解力と話す力を与えるため、地上に来られたことを示しています。

「エッファタ（開け）。」これは、洗礼の時、私たちにも投げかけられた言葉です。

「エッファタ（開け）。」イエスは、神のみ言葉が私たちの内に浸透するよう、私たちの心の耳を開かれます。

「エッファタ（開け）。」イエスは、すべての人に耳を傾けるよう、私たちを招かれます。特に小さな人、貧しい人、困難な状況にある人の背後には、イエスがおられます。私たちは兄弟の話に耳を傾け、皆と愛の対話を築き、福音を生きた体験を分かち合うこともできるでしょう。

私たちの内でイエスが働いてくださることに感謝し、二千年前の群衆のように、私たちも声高らかに言うことができるでしょう。

この方のなさったことはすべて、すばらしい。耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにしてください。

このいのちの言葉を、どのように生きればいいでしょうか。

私たちの「聞ざされた耳」を開くことです。神の声、良心の声、まわりの兄弟姉妹の声を聴くのを邪魔する、自分の中や周囲の騒音を静めることです。

言葉にならない場合が多くても、私たちに助けを求める声は、色々なところから響いているはずです。ある子供には特に目をかける必要があるかもしれず、難しい状態にある夫婦、病気の人やお年寄り、刑務所に入っている人が、私たちの助けを必要としているかもしれません。住みやすい町を望む市民の声、より公正な扱いを求める労働者の声、生きる可能性さえ奪われている民族の叫びが、私たちのもとに及びます。しかし私たちの注意と関心は、他の多くのことに向けられていて、周囲の人たちに対し、心の耳が鈍くなっているかもしれず、自分のことばかり考えて、他の声には聞こえないふりをしているかもしれません。

今月のいのちの言葉は、私たちが他の人々の心配や困難を共に背負い、彼らの喜びと期待を分かち合い、連帯していくため、「耳を傾ける」ことを求めています。そして、私たちが「口の利けない」状態に陥るのではなく、話す勇気を持つよう招いています。それは、人々の経験や信念をより深く理解し、声をあげることでできない人々を守り、和解をもたらし、新しいアイデアや解決策を提案するためです。

ある状況を前にして、自分の力不足を痛感し、太刀打ちできないと思う時にも、いのちの言葉にあるように「イエスは、私たちの耳と口を開かれた」という確信が、支えとなるでしょう。

この方のなさったことはすべて、すばらしい。耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにしてください

これは、南アフリカのルーシー・シャシャの体験でもありました。家族と共にドゥルバンに移り住んだ彼女は、大都市の生活に直面し、責任ある新しい仕事も

始めることになりました。当時はアパルトヘイトの時代で、黒人女性が管理職につくのは、非常にまれなことでした。

ある日ルーシーは、劣悪な労働条件から生じる強い喘息症状が、労働者の間に広がっていることに気がつきました。彼らの多くが突然姿を消したり、何ヶ月も休職したりするようになったからです。ルーシーは副社長と話し、工場の空気を浄化するのに効果がある機械を設置することを提案しましたが、多額の出費が伴うため、会社側は拒否しました。

しばらく前からのいのちの言葉を生きていたルーシーは、み言葉の中に力と光を見出しました。彼女は心の中に一つの火が燃えているのを感じ、自分がそこから勇気を得て、様々な手続きに落ち着いて対処でき、経営陣の意見にも心から耳を傾けることができるのを感じました。後に、彼女自身こう語っています。「ある時、声なき人々を守るための適切な言葉が、私の口にのぼりました。浄化装置のために当初多額の費用がかかったとしても、良い職場環境を労働者に提供することにより、彼らの欠勤を防げるので、最終的には経済面でも相殺されることを、会社側に理解してもらえたのです。」

彼女の言葉に会社側は納得し、浄化装置が導入され、喘息になる労働者は12パーセントから2パーセントに減り、同様の割合で無断欠勤も減少しました。経営陣はルーシーに感謝し、特別手当まで出してくれました。今では、労働者皆の喜びと共に、すべての意味で「新しい空気」が工場内に流れるようになりました。

キアラ・ルービック  
(2007.1)

★ いのちの言葉はその月の主日のミサで朗読される聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

フオコラーレ:

連絡先:03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

いのちの言葉のホームページ

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/>

温かい心

蛭田 幼一

坂を上るときは どうなることかと思つたのに  
坂を下るときは 温かいものが心に溢れていた

一日が終わって 今夜このテーブルの前に坐つてみると  
ああ よい一日だったと思う これから

どうなることか分からないが よい 一日であつた  
校門を出たら 何か温かいものが心に溢れて

灰墨色の雲の中に 夕暮れの太陽が ぼつと  
明るんでいた 心配事は 人並みにある 憂きことも

なくならぬであろう だがきつとまた

温かいものが心に溢れて これがどういふことかを

知つた者の上に 幸いをもたらすであろう

昇る日に照らされて 坂を上るとき





Cathédrale d'AUTUN (Saône-et-Loire)  
Apparition du Christ à Madeleine  
Chapiteau (XIIIe siècle)

# カルメル会の企画案内





## カルメル靈性センター主催

2007年度

# カルメル会四旬節講話シリーズ

テーマ：今こそ信徒を切実に招かれるキリストのみ声  
—現代における信徒の靈性—

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩7分）  
世田谷区上野毛2-14-25 カルメル修道会（TEL 03-3704-2171）  
日時：下記の各土曜日 午後2時半開始 入場無料（講話の後、主日のミサ）

- 2月24日（土） 雨宮 慧（東京教区司祭）  
「聖書が語る聖靈」
- 3月 3日（土） 田畑邦治（白百合女子大学教授）  
「世に生きる希望の証し」
- 3月10日（土） 大瀬高司（カルメル修道会司祭）  
「旅する教会の途上にて 呼びかけられた覚醒、帰される覚生」
- 3月17日（土） 九里 彰（カルメル修道会司祭）  
「世に遣わされたキリストの姿」
- 3月31日（土） 中川博道（カルメル修道会司祭）  
「世を愛された神と共に世に生きる靈性」

なおカルメル会の司祭による講話は、以下の場所、日時においても行なわれます。

場所：カトリック三馬教会聖堂  
石川県金沢市三馬3-324 カルメル修道会（TEL 076-244-7788）  
日時：下記の各日曜日 午後2時開始 入場無料

- 2月25日（日） 中川博道（カルメル修道会司祭）  
「世を愛された神と共に世に生きる靈性」
- 3月18日（日） 九里 彰（カルメル修道会司祭）  
「世に遣わされたキリストの姿」

靈性センター事務局 Tel(03)3704-2171 Fax(03)3704-1764

## 上野毛靈性センター '07年2月～'08年3月

A 黙想企画 \*\* 聖テレジア修道院(黙想) \*\*

## 1. 聖書深読 (毎回土曜日 夕食～日曜日16時)

2月24日～25日 九里彰師

4月14日～15日 九里彰師

7月 7日～ 8日 九里彰師

12月15日～16日 九里彰師

08/ 2月23日～24日 九里彰師

## 一日聖書深読 (毎回土曜日午前10時～午後4時)

10月13日 九里彰師

11月17日 九里彰師

08/ 1月12日 九里彰師

3月15日 九里彰師

## 2. 奉獻生活者のための黙想会

7月26日(木) 夕食～ 8月 4日(土) 朝 九里彰師

8月21日(火) 夕食～ 30日(木) 朝 福田正範師

12月26日(水) 夕食～08/1月4日(金) 朝 福田正範師

## 3. 木曜黙想会 一般黙想 (毎回木曜日10時～16時)

2月15日 ザアカイの回心 九里彰師

4月12日 私の心は燃えていたではないか 福田正範師

5月10日 私はぶどうの木、あなた方はその枝である 九里彰師

6月28日 思い悩んではならない 福田正範師

7月 5日 子よ、元気を出しなさい 九里彰師

10月25日 あなたの信仰が、あなたを救った 福田正範師

12月20日 お言葉どおり、この身に成りますように 九里彰師

08/ 1月31日 主よ、助けてください 福田正範師

2月28日 見えない者は、見えるようになる 九里彰師

3月27日 あなた方に平和があるように 福田正範師

## 4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎週金曜日10時～16時)

3月16日 アヴィラの聖テレジアによる「主の証し人」 松田浩一師

4月27日 十字架の聖ヨハネの「無の道」 九里彰師

5月25日 カルメルの父 聖ヨゼフ 福田正範師

7月20日 カルメルの元后 聖マリア 福田正範師



- |           |                    |       |
|-----------|--------------------|-------|
| 9月21日     | アヴィラの聖テレジアの説く「従順」  | 九里彰師  |
| 10月 5日    | リジューの聖テレジアが生きた「祈り」 | 九里彰師  |
| 11月 2日    | 自分に死に、あなたに生きんことを   | 福田正範師 |
| 12月 7日    | 三位一体のエリザベットの示す「天国」 | 九里彰師  |
| 08/ 2月 8日 | 御復活のラウレンシオ         | 福田正範師 |
5. 青年黙想会 九里彰師 神学生  
 5月4日(金) 20時～ 6日(日)・・・(4日は夕食を済ませてご参加ください)  
 11月23日(金)～24日(土)・・・受付 15時から
6. 召命黙想会(男女) 九里彰師、  
 4月21日(土)～22日(日)・・・受付 15時から  
 11月9日(金) 20時～11日(日)・・・(9日は夕食を済ませてご参加ください)
7. 大祝日のミサに与かるために  
 【クリスマス】・・・チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時  
 12月24日(月)～25日(火)《講話なし、夕食なし》  
 【聖週間を祈る】チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時  
 聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。  
 4月 5日(木)～ 8日(日)《講話なし、各食事つき》  
 08/ 3月20日(木)～23日(日)《講話なし、各食事つき》
8. 特別黙想会 伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ) 夕食を済ませてご参加ください。  
 A【私は神を見たい】・・・聖霊に導かれて  
 6月29日(金) 20時 ～ 7月1日(日)  
 B【私は神を見たい】・・・祈り  
 10月26日(金) 20時 ～ 28日(日)

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。  
 またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので  
 なるべくFAX・はがき・Eメールでお願いします。(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

## B カルメル靈性研究クラス (九里 彰神父)

\* 十字架の聖ヨハネ『靈の賛歌』

2月21日 「第33の歌と第34の歌」

3月14日 「第35の歌と第36の歌」

3月28日 「第37の歌と第38の歌」

\* アヴィラの聖テレジア『完徳の道』⇒『創立史』

2月14日 (第40章と第41章)

2月28日 (第42章、全体の分かち合い)

3月21日 (『創立史』はしがきと第1章)

どちらも水曜日夜7:15~8:45まで。テキストを少しずつ読み、解説と分かち合いがあります。随時参加もOKです。上野毛教会信徒会館2階26号室。無料。

## C 祈りの集い (九里 彰神父)

2月23日 「兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。」

3月30日 「あなたたちの中で罪のない人が、まずこの女に石を投げよ。」

毎月一回金曜夜7:15分より。上野毛聖テレジア修道院(黙想)小聖堂。都合の悪い場合は、上野毛教会信徒会館ホールで。無料。

7:15~8:15 み言葉と念禱

8:15~8:45 分かち合い(参加自由)

## D キリスト者の信仰の歩み ~キリスト教靈性の初歩~

(松田 浩一神父)

第九回 2月2日(金)

第十回 3月2日(金)

19:00~19:30 初金ミサ (上野毛教会聖堂)

19:40~20:40 勉強会 (上野毛教会信徒会館2階26号室)

\* 参加費は無料。対象はキリスト者としての信仰を深めたい人とキリスト教に関心のある人。持ってくる物は、聖書、筆記用具、ノート。

## E 東西靈性研究クラス (九里 彰神父) 予告

カルメルの靈性を通して、広く諸宗教の靈性を学ぶため、4月から開講します。

\* 原則として毎月第二金曜日(午後7:15~8:45)信徒会館26号室

\* 各回とも、参加者に順番でリポーターを勤めて頂きます。その後、分かち合い。

\* 第一回 4月13日『行持上』(道元著『正法眼蔵』岩波文庫第一巻、第十六)

\* 問い合わせ: 加藤和彦 TEL(03)3418-6816

# ルルドの聖母とカルメル会士 ヘルマン・コーヘンの生誕

慈しみ深い神を探す若者たちの集い (C.Y.C.)

2月11日は、カトリック教会では『病者の日』となっています。また、この日は『ルルドの聖母の記念日』ともなっています。多くの人がフランスのルルドに心と体の癒しを求めて巡礼します。このルルドと関係の深いカルメル会士、ヘルマン・コーヘンが19世紀終わりに登場します。彼はユダヤ人であり、かつ音楽家リストの弟子でもありました。彼の生涯を見ながら、ルルドの別の面を見てみませんか。お待ちしております。

**日時： 2月12日(月)13:30 から 16:30 まで。**

**対象：** 18歳以上30歳までの青年男女。

**スタッフ：** 上野毛修道院のカルメル会士たち

**場所：** カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

東横大井町線 上野毛駅下車 徒歩5分

## プログラム：

- |             |                       |
|-------------|-----------------------|
| 13:30~      | 受付開始 (13:45~: はじめの祈り) |
| 14:00~14:40 | ヘルマン・コーヘンの生誕          |
| 14:40~14:50 | 休憩                    |
| 14:50~15:30 | ルルドの聖母とわたしたち          |
| 15:30~16:00 | 青年たちのための祈り・賛美・祝福      |
| 16:00~16:30 | 茶話会                   |
| 16:30       | 解散                    |



**参加ご希望の方は、お手数でも FAX または E-mail に住所・氏名・年齢をお書きの上、下記宛に送ってください。当日の飛び入り参加も OK です。直接会場にお越しください。**

カルメル会では若者の集い『カルメル・ユース・クラブ』を行っています。カルメル家族に支えられて、イエス・キリストが示してくださった「いつくしみ深い神の姿」を追い求め、その神様に出会おうとする集まりです。この集まりは、家庭的な雰囲気の中で、「隠れている宝」に対する信仰を養っていきます。今後の予定；3月21日(水)『神と人間の和解：和解の秘蹟(告解)の実践』

(連絡先・問い合わせ)

カルメル修道会カルメル・ユース・クラブ (C.Y.C.) 係 Fr. 松田

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

TEL 03-3704-2171 FAX 03-3704-1764

E-mail [tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

[carmeltokyo@yahoo.co.jp](mailto:carmeltokyo@yahoo.co.jp)



## 2007年 聖週間 ご案内

4月1日(日) 受難の主日(枝の主日)

4月5日(木) 聖木曜日(主の晩餐)

典礼 19:00～

4月6日(金) 聖金曜日(主の受難) 大斎、小斎

十字架の道行き15:00～

典礼 19:00～(十字架の崇敬と称賛)

4月7日(土) 聖土曜日

典礼 19:00～ 洗礼式

4月8日(日) 復活の主日

荘厳ミサ 10:30～ ミサ後祝会 ・ たまごの祝別(各ミサ後)

### 「聖週間、祭日のミサにあずかるために」

#### 個人黙想ご案内

聖週間の典礼、復活の主日のミサにあずかるため、黙想の家で静修の一時をお過ごしになりませんか。

#### 2007年4月5日(木) 夕食～8日(日)朝食

- \* 講話は、ありません。各人のテーマによる黙想  
チェックイン：午後3時から入室可。  
チェックアウト：午前10時(復活の主日)
- \* 費用： 1泊 ￥5000 (3食付・1泊から参加可)
- \* お問い合わせ、お申込み： **Tel.03-5706-7355・Fax.03-3704-1764**

上野毛・聖テレジア修道院(黙想)

‘07年2月～’08年3月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)

＊ ＊宇治聖テレジア修道院 (黙想) ＊ ＊

1. 聖書深読

① 一泊二日 (午後5時～午後4時)

3月10日 (土) ～11日 (日)	渡辺幹夫神父
5月19日 (土) ～20日 (日)	中川博道神父
7月21日 (土) ～22日 (日)	新井延和神父
9月15日 (土) ～16日 (日)	中川博道神父
11月17日 (土) ～18日 (日)	渡辺幹夫神父
08/ 3月 8日 (土) ～ 9日 (日)	新井延和神父

② ミニ深読 (午後14時～午後16時)

2月13日 (火) 深読スタッフ

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

2月14日 聖ヨゼフ	中川博道神父
3月14日 主の十字架	渡辺幹夫神父
4月11日 復活	新井延和神父
5月23日 聖霊	長岡幸一神父
6月20日 み心	ベルナルド神父
7月18日 カルメルの聖母	カルメロ神父
9月19日 エディットシュタイン	渡辺幹夫神父
10月17日 アピラの聖テレジア	アロイジオ神父
11月14日 日常の聖性	中川博道神父
12月12日 十字架の聖ヨハネ	新井延和神父
08/ 1月16日 新しくなる	渡辺幹夫神父
2月20日 聖書の祈り	新井延和神父
3月12日 主の受難	カルメロ神父

3. 四旬節黙想 (午後5時～午後4時)

3月3日 (土) ～3月 4日 (日)	新井延和神父
08/ 2月9日 (土) ～2月10日 (日)	カルメロ神父

4. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

12月1日 (土) ～12月2日 (日)	渡辺幹夫神父
----------------------	--------

5. 聖テレズの黙想 (午後5時から午後4時まで)

9月30日 (日) ～10月1日 (月)	伊従信子
----------------------	------

京 都

6.一般のための黙想会（修道者も可能）

4月28日（土）～5月5日（土）

中川博道神父

7.日曜黙想会（午前10時～午後4時）

6月10日

渡辺幹夫神父

10月 7日

渡辺幹夫神父

8.奉獻生活者の黙想（午後5時～午前9時）

8月 2日（木）～ 8月11日（土）

中川博道神父

8月18日（土）～ 8月27日（月）

渡辺幹夫神父

10月20日（土）～10月29日（月）

渡辺幹夫神父

12月27日（木）～ 1月 5日（土）

カルメロ神父

9.青年黙想会（午前10時～午後4時）

11月4日（日）

カルメル宣教修道女会 中川博道神父

.....

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

\*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）  
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
TEL 0774-32-7016 FAX 0774-32-7457



# 「立ちどまって、ひとりになって、瞑いてみよう！」

## ～都会の中の一泊静修～（2007）

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかかでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、「秘跡を生きる」としました。このテーマの中で、秘跡の教義的な側面をベースにし、神との出会いの中で七つの秘跡をどのように受止め、生きることが出来るかを黙想の中で深めていく事ができるようにと願っています。

了	第1回	1月16日(火)	神の現存の体験	松田浩一神父	(上野毛修道院)
	第2回	2月12日(月)*祝	洗礼・堅信の秘跡	中川博道神父	(宇治修道院)
	第3回	3月21日(水)*祝	赦しの秘跡	新井延和神父	(宇治修道院)
	第4回	4月17日(火)	聖体の秘跡	カルメロ神父	(宇治修道院)
	第5回	5月15日(火)	結婚の秘跡	九里章神父	(上野毛修道院)
	第6回	6月19日(火)	叙階の秘跡	渡辺幹夫神父	(宇治修道院)
	第7回	7月16日(月)*祝	カルメル山の聖母	新井延和神父	(宇治修道院)
	第8回	9月11日(火)	幼いイエスの聖テレジアと秘跡	アダミニ神父	(日比野修道院)
	第9回	10月16日(火)	アヴィラの聖テレジアと秘跡	Sr.ベアトリス	(宇治修道院)
	第10回	11月23日(金)*祝	病者の塗油	ベルナルド神父	(宇治修道院)

\* 時間 AM10:00～PM4:00

\* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) \*聖テレジア幼稚園隣接  
(駐車場は利用できません。)

\* 費用 1,000円

\* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

\* 定員 約20名

\* プログラム

10:00～	祈り
10:40～	講話【1】
12:00～12:45	昼食
12:50～	赦しの秘跡または短い面接
13:30～	講話【2】
14:45～	ミサ
15:30～	茶話会
16:00～	終了

☆ 空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

名古屋カルメル霊性センター—日静修係

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

または、〒465-0058 名古屋市名東区貞船3-2115 小林厚 TEL/FAX 052-701-3685

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 3 京都（毎回土曜日）

2月 3日	一場修神父	7月 14日	P. オハール神父
3月 3日	一場修神父	9月 8日	新井延和神父
4月 21日	奥村豊神父	10月 6日	P.オハール神父
5月 12日	新井延和神父	11月 17日	奥村豊神父
6月 9日	渡辺幹夫神父	12月 8日	新井延和神父

\*日曜日の福音を深く味わい、分かち合い、解読で学びながら福音を深く心に刻む  
聖書深読黙想会に、どなたでもご参加ください。

場 所：河原町カトリック会館6階又は7階

費 用：各回 2,500 円（昼食代を含む）

時 間：午前10時～午後4時 持参品：聖書・筆記用具・ノート

申し込み・問い合わせ（お申し込みは、各回3日前までに）

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル

河原町カトリック会館内 聖書委員会

TEL：075-211-3484 FAX：075-211-3910

### 4 名古屋聖書深読会

4月14日（土） 日比野カトリック教会 新井延和神父

5月19日（土）～20日（日） 宇治カルメル会聖テレジア修道院（黙想）  
中川博道神父・奥村一郎神父

10月 6日（土） 日比野カトリック教会 中川博道神父

- \* 毎回事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。
- \* 定員 21 名 申し込みは FAX かハガキでお願いします。
- \* コースは深読法を集中的に行う一日コースと全行程を沈黙のうちに黙想しながら 1泊2日のコースがあります。
- \* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方ならどなたでもご参加ください。

申し込みは、下記の住所へ、ハガキか FAX で、氏名、住所、TEL を記入の上開催の3日前までに必着のこと。キリスト者は所属教会名もご記入ください。

〒465-0058 名古屋市名東区貴船 3-2115 小林 厚・晃子

TEL/FAX052-701-3685



## お知らせ

### 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

#### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

#### 2 有光信子さんのグループ

参加者は「素読表」（B5あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解説はない。

費用：1回 300円 年 10回 3,000円

送り先：〒663-8033 西宮市高木東町 31-20-504 有光信子

TEL/FAX 0798-67-8132

#### 3 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrベアトリスが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srベアトリスまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

#### 聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srベアトリス

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

## カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」No. 322 (2006 年秋号) 「今日の靈性」

### 聖書

聖靈の光のもとに 一聖書と教父 (3) …高橋正行

### カルメル会の諸聖人

信仰による照らし 一第三講話(第三部) …フェデリコ・ルイス

アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味 (3)

一『靈魂の城』を中心にして …九里 彰

三位一体のエリザベット帰天百周年にあたって一 (3) 最後の日々 …伊従信子

エディット・シュタインの神への道行き (1)

一アヴィラのテレサとの邂逅とその影響 …須沢かおり

愛で生きる (2) …ペトロ・アロイジオ

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (14) 一神よ、あなたはどこに …伊従信子

### 靈性一般

[靈的講話]今、光を生きる …中川博道

“生きるために死ぬ”ということ …森 みさ

愛の断章 (1) …奥村一郎

雑誌「カルメル」No. 323 (2006 年冬号) 「今日の靈性」

### 聖書

聖靈の光のもとに 一聖書と教父 (4) …高橋正行

### カルメル会の諸聖人

祈り(13) …チプリアノ・ボンタッキョ

信仰による照らし 一第四講話(第一部) …フェデリコ・ルイス

アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味 (4)

一『靈魂の城』を中心にして …九里 彰

三位一体のエリザベット帰天百周年にあたって一 (4) 光、愛、いのちへ …伊従信子

エディット・シュタインの神への道行き (2)

一アヴィラのテレサとの邂逅とその影響 …須沢かおり

愛で生きる (3) …ペトロ・アロイジオ

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (15) 一全存在をかけて祈る …伊従信子

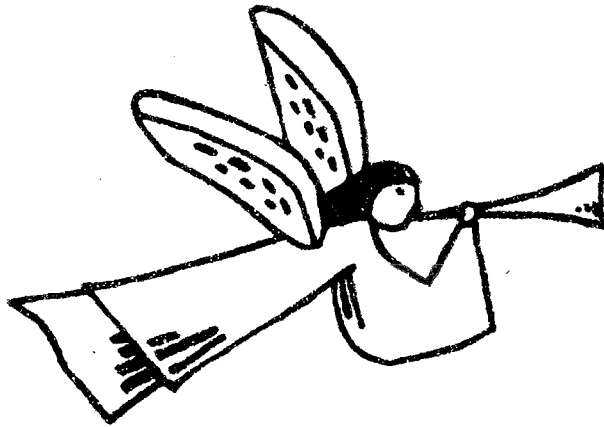
### 靈性一般

石牟礼道子の作品に見られるキリスト教 (3)

・・・『十六夜橋』のコスモロジーと「原罪」 …谷口正子

愛の断章 (2) …奥村一郎

## 諸所の企画案内



CWC (キリスト者婦人の集い)

心のいほり

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

真命山靈性交流センター

ノートルダム教育修道女会

ノートルダム・ド・ヴィ

1

2

3

4

# 諸所の企画案内

## 【CWC（キリスト者婦人の集い）講話会】

今年は、「聖書深読入門」を行ないません。

講師：九里 彰神父（カルメル会）

日時：原則として第二火曜日（以下のとおりです）

場所：真生会館4階第8会議室 時間：午前10時30分～12時

対象：キリスト教に関心のある方はどなたでも。

### 2007年

2月13日（火）

3月13日（火）

4月10日（火）

5月 8日（火）

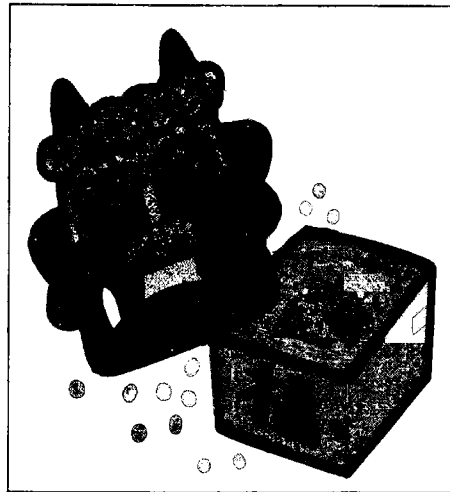
6月12日（火）

7月10日（火）

10月9日（火）

11月13日（火）

12月11日（火）



8月9月はお休みいたします。

### 方法

1. まず講師の選んだ聖書箇所を皆で一節ごとに「輪読」。
2. その後、沈黙の内に何度も読み、み言葉を味わう「素読」。
3. 「素読」で受け取ったものを、一節ごと皆で分かち合う「合読」。  
(無理に発言する必要なし。何も発言しなくてもOK。)
4. 「合読」を受けて、講師がその日の箇所について解説する「解説」。

# 目 次

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターにお問い合わせ下さい。電話では取次いでおりません。

申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

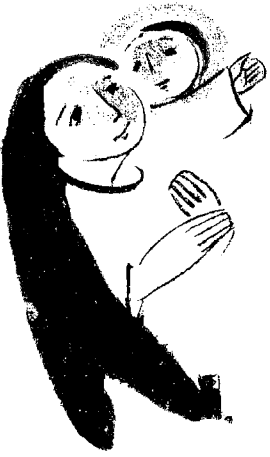
◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」

藤原神父 FAX 072-802-5026

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

## ★ 2007年度(予定) ★

K1	07・01・21 (日)	4時から	01・27 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	了
B1	07・01・29 (月)	2時から	02・04 (日)	2時まで	札幌・厚別・ベネディクト	了
Y1	07・02・10 (土)	2時から	02・16 (金)	2時まで	神戸・須磨ヨハネ	
P1	07・02・22 (木)	2時から	02・28 (水)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	
K2	07・03・18 (日)	4時から	03・24 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	
M1	07・05・17 (木)	2時から	05・23 (水)	2時まで	盛岡・白百合・シャルトル	
K3	07・06・03 (日)	4時から	06・09 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	
P2	07・06・17 (日)	2時から	06・23 (土)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	
N2	07・06・26 (火)	2時から	07・02 (月)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	
Y2	07・07・22 (日)	2時から	07・28 (土)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ	
P2	07・08・10 (金)	2時から	08・16 (木)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	
K4	07・09・09 (日)	4時から	09・15 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	
B2	07・10・17 (水)	2時から	10・23 (火)	2時まで	札幌・厚別・ベネディクト	
N3	07・11・02 (金)	2時から	11・08 (木)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	
K5	07・11・11 (日)	4時から	11・17 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	
P3	07・12・03 (月)	2時から	12・09 (日)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	



### \*\*\*\*\* 一日内観・ミニ内観のご案内 \*\*\*\*\*

#### 一日内観

★宝塚売布女子ご受難会修道院にて 参加費は1万円

2007年 1月 7日(日)午後2時から 8日(月)午後4時まで

2007年10月27日(土)午後2時から28日(日)午後4時まで

#### ミニ内観

★沖縄・安里修道院・毎月第一水曜日・10時から3時まで

シスターかな・電話098・866・8293

\*\*\*\*\*

リーゼンフーバー講座・集いご案内

【入門講座】 毎週金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階

- 2月2日(金) 神の言葉—神との日常的な対話と黙想の仕方  
2月9日(金) 結婚と独身—愛の道  
2月16日(金) 信徒・司祭・修道者—誰もが召されている  
2月23日(金) 仕事という人間の課題—社会に寄与して働く  
2月24日(土) ●黙想会  
2月25日(日) ●黙想会  
3月2日(金) 世界の聖化—他宗派・他宗教・社会の中で働く恵み  
3月9日(金) 人間の苦悩—悪とは何のためか  
3月16日(金) 死—その実現と克服

【理解講座】 第1・第3・第5 火曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階

- 2月6日(火) [教会] 教会の課題—信仰と恵みの担い手  
2月20日(火) 一致というイエスの望み—キリスト者の間、世界の中で  
2月24日(土) ●黙想会  
2月25日(日) ●黙想会  
3月6日(火) [終末] 世界の完成—人類に与えられた神の約束  
3月20日(火) 恩恵の実り—聖母マリアと聖人の崇敬  
4月8日(日) 感謝のミサ(14時、上智大学内 Kulturtulハイム2階)

【会社帰りの黙想】 毎月第2・第4 火曜日 18時45分～20時

【祈りの集い】 講話・黙想・ミサ 下記の土曜日 13時30分～16時

2/3、3/10 上智大学内 S. J. ハウス第5会議室

【ロザリオの祈り】 同日 16時15分～16時50分 上智大学内 Kulturtulハイム1階右側小聖堂

【水曜日のミサ】 ミサ：17時10分～18時、黙想：18時～18時30分  
上智大学内 Kulturtulハイム1階右側小聖堂

【黙想会】

2/24(土) 10時～2/25(日) 15時 上石神井：要申込み

【問い合わせ・クラス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部哲学科教授)連絡先】

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S. J. ハウス

TEL 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)

FAX 03-3238-5056

<http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/>

# 真命山

# 真命山の靈性

諸宗教対話・靈性交流センター



## 自然

神はすべてを作り  
人の手に委ねられた

陽の昇るところから  
陽の沈むところまで

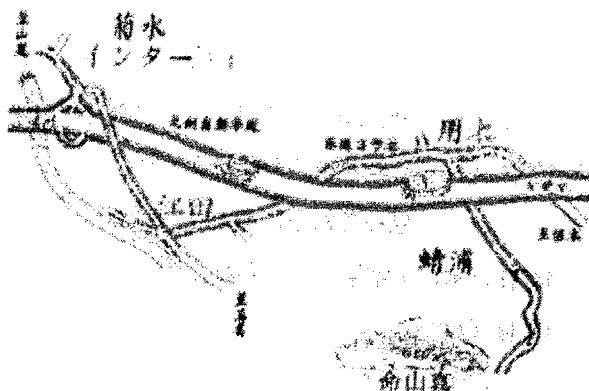
## 祈り

## 静けさ

沈黙の中に神の  
言葉を聞こう

信仰体験を  
分かち

## 交わり





# 真命山

2007 年度行事のご案内

祈りの集い (午前10時～午後3時)

年間テーマ「聖ダミアノの十字架のもとで祈る」

- 了 1月11日(木) 聖ダミアノの十字架のもとで祈った  
聖フランチスコ
- 2月8日(木) 十字架に釘づけられたキリストの体
- 3月8日(木) キリストの受難と死
- 4月12日(木) 死に勝たれたキリストの姿
- 5月10日(木) イエス様の十字架のもとに  
立っておられるマリア様
- 6月14日(木) 十字架につけられたキリストの御顔
- 7月12日(木) // (続き)
- 9月13日(木) 三位一体の栄光を表す十字架
- 10月11日(木) 十字架につけられたキリストを  
囲んでいる人々
- 11月8日(木) 十字架を担ってキリストに従う
- 12月13日(木) 十字架と馬小屋

指導者：真命山スタッフ

フランコ・ソットコルノラ神父 (院長)

シスター マリア・デ・ジョルジ

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。(要予約)

申し込み先

〒 865-0133

熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

## ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

◎ 所在地：〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1

Tel: 077-579-7580

Fax: 077-579-3804

Eメール: nd-inori@mbr.nifty.com

◎ 交通: JR京都駅から湖西線で「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日程:

### A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2006年12月27日(水)～2007年1月4日(木)了
- ② 2007年2月20日(火)～2月28日(水)
- ③ 7月23日(月)～7月31日(火)
- ④ 8月18日(土)～8月26日(日)
- ⑤ 9月1日(土)～9月9日(日)

### B. 週末3日間の個人指導による祈りの体験(神との親しさの中で日常を生きるために)

初日は、17時のミサで始まり、最終日は13時30分のミサで終わります。

- ⑥ 2007年1月19日(金)～21日(日)了
- ⑦ 2月2日(金)～4日(日)
- ⑧ 4月13日(金)～15日(日)
- ⑨ 5月11日(金)～13日(日)

### C. 3日間の週末個人黙想(週末に個人黙想をなさりたい方のため)

他の黙想会が行われている場合があります。

- ⑩ 2007年2月23日(金)～2月25日(日)
- ⑪ 3月2日(金)～4日(日)
- ⑫ 3月23日(金)～25日(日)
- ⑬ 5月18日(金)～20日(日)
- ⑭ 6月29日(金)～7月1日(日)
- ⑮ 9月7日(金)～9日(日)
- ⑯ 10月5日(金)～7日(日)
- ⑰ 10月12日(金)～14日(日)
- ⑱ 10月19日(金)～21日(日)

⑱ 11月 2日(金)～ 4日(日)

D. 霊性プログラム：ワークショップ (自己発見から神へ)

㉔ 2007年3月22日(木)～ 29日(木)

E. 上記の日程以外でも、個人で黙想をなさりたい方は、問い合わせてください。

◎ 対 象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 担当者： トニー・ブロードニャック師 (メノール宣教会) と シスター が  
霊的同伴者としてお手伝いいたします。

◎ 受 付： 受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、初日の午後3時からです。

◎ 申込先： 郵送、または、Fax でお願ひします。

郵送： 〒520-0106 大津市唐崎 1丁目3-1 ノートルダム修道院

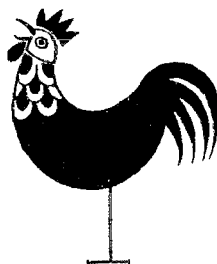
Fax： 077-579-3804

1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて下さい。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。  
いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。但し、それ以前に満室に  
なった場合は、次の機会にお願いすることがあります。

◎ 問い合わせ： 電 話： 077-579-7580 または、

Eメール： [nd-inori@mbr.nifty.com](mailto:nd-inori@mbr.nifty.com) [件名は黙想] でお願ひします。



# いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を  
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、  
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2007年 2月17日(土)

— 暗夜 —

(幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師帰天40周年にあたって)

\* 次回の予定 3月17日(土)、4月21日(土) \*

講話 伊従信子・片山はるひ

午後2時より 講話・祈り・分かち合い

午後5時半 ミサ(参加自由です)

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail jndv-jp@r2.dion.ne.jp

カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、  
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、  
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

# 新刊紹介

## ◆「神はわたしのうちに、わたしは神のうちに」

(三位一体のエリザベット帰天百周年記念出版)

伊従信子著・聖母文庫・¥525

総頁196



## ◆「祈りの道」・「いのちの道」

写真と文 伊従信子・サンパウロ・¥840・総頁各48

日々の生活に潤いをもたらす、

珠玉の言葉と写真を集めた2冊

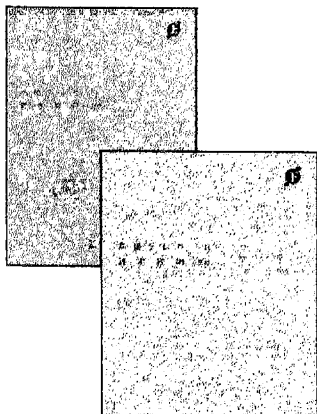


## ●「三位一体のエリザベット」

—神は私のうちに 私は神のうちに—

菊地多嘉子著・ドンボスコ・¥525

Sr.菊地多嘉子が、沈黙の生活の中からわきあがるエリザベットの靈性の美しさを記す。



## ●「神の憐れみの人生」(上・下)

監修 鈴木宣明

訳 高橋テレサ

聖母の騎士社・上下各巻 ¥840

カルメル会・アビラの聖テレサに関する新刊本。

## 投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめて送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

- \* 寄稿連絡は、九里 彰神父宛にお願いいたします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会修道院

Tel (03) 3704-2171 Fax (03) 3704-1764

## 投稿規程

- \* 締め切り：原則的に毎月10日まで
- \* 原稿サイズ：B5 左右の余白：20mm
- \* 原稿はできる限りワープロかパソコンでおねがいします。  
**手書きの場合は**、パソコンで打ち直しのため掲載が遅れる場合も出てきます。
- \* E-mailでの投稿は、添付ファイルで、seminary@carmel-monastery.jp宛てにお願いします。
- \* 「心の泉」のコーナーについては、小題をつけて。
- \* 「諸所の企画」のコーナーについては、
  - ①主催するグループ名もしくは個人名を明記。
  - ②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
  - ③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。

「霊性センターニュース」をご希望の方は、

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。

佐々木茂子 〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11

Tel (045) 575-5722

## 読者へのお願い

「霊性センターニュース」は現在、ご希望の方へ無料で配付しております。コピー代、紙代、印刷代等、諸経費はすべてカルメル修道会が負担しております。読者のみなさまのご理解、ご協力をお願いいたします。

\* 献金される方は、下記の口座へお振込みください。

郵便番号口座：00110-4-297250

加入者名：カルメル霊性センターニュース

通信欄に「霊性センターニュースへの献金」とご記入ください。

\* なお上野毛教会信徒会館の「カルメル図書コーナー」の献金入れに、直接、献金して下さっても結構です。



## 編集後記

二月三月は、日本では言うまでもなく、受験シーズンであると同時に、卒業式のラッシュでもある。幼稚園から大学まで、卒業式（幼稚園の場合は卒園式）が日本の津々浦々で厳かに執り行われる。

「式」は大切なものだが、その緊張度には、日本独特のものがある。私も二つの高校に勤務し、それを目の当たりにしているが、勤続何十年ものベテランの先生がガチガチとなっており、絶対に間違いは許されないという感じなのである。確かに「都はるみ」を「美空ひばり」と言ってしまうとまずいことになるだろうが、間違えると切腹か御手討（おてうち）になるといった雰囲気は、精神衛生上、あまりよろしくないように思える。

式の主役は、生徒や学生たちなのに、教職員は、絶対に間違いのないよう、粗相のないよう、式が無事に終わることをひたすら祈るのである。卒業証書を受け取る練習は、日本人であればみなやらされるわけだが、お辞儀の角度から、証書のどの位置に手を置くか、右手が先か左手が先か、視線、声の大きさ、歩く姿勢、曲がり方などなど、さまざまなチェックが入り、卒業を祝うどころの話ではなくなってくる。「卒業式は卒業生のために定められた。卒業生が卒業式のためにあるのではない。だから卒業生は卒業式の主でもある」とでも言いたくなってくる。

お茶の作法が影響しているのであろうか。形を大事にする日本文化の伝統が、ここにも受け継がれているといったところであろう。一種の修行と考えれば、納得できないはないが、欧米人にはまったく理解できない心理状態と言ってもいいかもしれない。

(P.九里)

